

Constitution of the WHO

Constitution of the World Health Organization :

THE STATES parties to this Constitution declare, in conformity with the Charter of the United Nations, that the following principles are basic to the happiness, harmonious relations and security of all peoples:

Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.

The enjoyment of the highest attainable standard of health is one of the fundamental rights of every human being without distinction of race, religion, political belief, economic or social conditions.

(confirmed September 21, 2004 at <http://www.who.int>)

(027 - 066) 医療におけるスピリチュアリティへの関心

1910年: William Osler 「癒す信仰」の論文。

以来, 宗教心・スピリチュアリティが健康・治療に影響を与える可能性の探求。

1982年以降: MEDLINE・CINAHLで論文発表急増。

(鶴若ら: 生命倫理; 11(1)、2001年)

1998年: WHOの健康の新定義提案。

健康とは, 身体的・心的・スピリチュアル・社会的
という4つの領域での良好。。。。

(宇都宮輝夫: 人生物語としてのスピリチュアリティ。スピリチュアリティの現在

(湯浅泰雄監修)、p255、人文書院、京都、2003年)

(027 - 067) WHOにおけるスピリチュアリティ

1978年：インドのビシュ執行理事が、健康の定義にスピリチュアリティも考慮すべきと提言。

1983年：健康に関する憲章の改訂のための特別委員会。

1998年：特別委員会が定義改正を執行理事会に提案。

提案したのは東地中海地域地方事務局で、ほとんどがイスラム諸国。

執行理事会で、総会で議題とすることを議決。

1999年：総会で、現定義は機能している・新定義の緊急性が低いとして実質審議に入らず、採択も見送られ。。。

ref：宗教的背景が異なるとスピリチュアリティも異なる？

(宇都宮輝夫：人生物語としてのスピリチュアリティ。スピリチュアリティの現在
(湯浅泰雄監修)、p256、人文書院、京都、2003年)

(027 - 055) WHOにおける健康定義に

スピリチュアリティ書き加え提案の背景

1. スピリチュアリティを重視する立場も、慎重あるいは反対の立場も当然ありうる。
2. 背景として、QOLの様々な側面が問題とされるようになった状況がある。
3. WHOは宗教的な祈禱による治療や民間療法などをも軽視・排除しない。
4. social/physical/psychological/cultural/spiritualなどの形容詞を同列に列挙することで健康を総体的にとらえている。
5. 1984年の第37回総会ですでに決議前文では、スピリチュアルな側面について言及されている。

(葛西賢太:スピリチュアリティを使う人々。スピリチュアリティの現在
(湯浅泰雄監修)、p145、人文書院、京都、2003年)

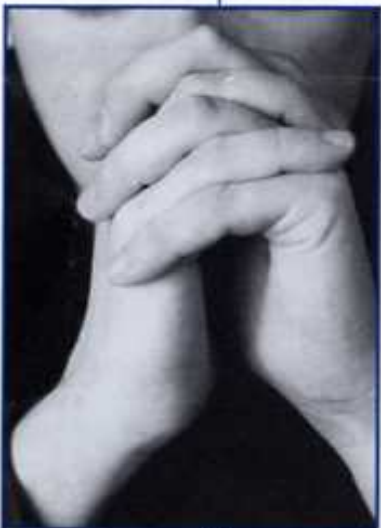
CAM AT THE NIH

FOCUS ON COMPLEMENTARY AND ALTERNATIVE MEDICINE

VOLUME XII, NUMBER 1

WINTER 2005

Prayer and Spirituality in Health: Ancient Practices, Modern Science



© Duncan Walker

People have used prayer and other spiritual practices for their own and others' health concerns for thousands of years. Scientific investigation of these practices has begun quite recently, however, to better understand whether they work; if so, how; and for what diseases/conditions and populations. The

- Almost 10 percent had participated in a prayer group for their health.

Prayer was the therapy most commonly used among all the CAM therapies included in the survey. The report also addressed the use of other CAM approaches that can have a spiritual component, including meditation, yoga, tai chi, qi gong, and Reiki.



INSIDE

- 3 NCCAM's New Strategic Plan
- 4 Research Roundup
- 5 Herb-Drug Interactions
- 6 News for Researchers
- 6 Acupuncture for Knee Osteoarthritis
- 7 Melatonin Report
- 7 Calendar of Events
- 8 Institute of Medicine's CAM Report

**NATIONAL CENTER
FOR COMPLEMENTARY AND
ALTERNATIVE MEDICINE**

**NATIONAL INSTITUTES
OF HEALTH**

**U.S. DEPARTMENT OF
HEALTH AND HUMAN
SERVICES**

...so, how, and for what diseases/ conditions and populations. The National Center for Complementary and Alternative Medicine (NCCAM) is supporting research in this arena.

Many Americans are using prayer and other spiritual practices. This was confirmed by findings from the largest and most comprehensive survey to date on Americans' use of complementary and alternative medicine (see Barnes PM et al. in "Sources"). This survey of more than 31,000 adults, released in May 2004 by the National Center for Health Statistics and NCCAM, found that 36 percent had used complementary and alternative medicine (CAM), when prayer was not included in the definition of CAM; when prayer was included in the definition of CAM, 62 percent had used CAM (all figures refer to use in the preceding 12 months). Among the respondents:

- 45 percent had used prayer for health reasons.
- 43 percent had prayed for their own health.
- Almost 25 percent had had others pray for them.

meditation, yoga, tai chi, qi gong, and Reiki.¹

Stephen E. Straus, M.D., Director of NCCAM, said, "Prayer and spirituality for the benefit of health are relied upon by many Americans. NCCAM seeks to develop strategies to bring the most rigorous and detailed scientific approaches to studying these and other CAM practices so that we can understand the health impact that these practices might have."

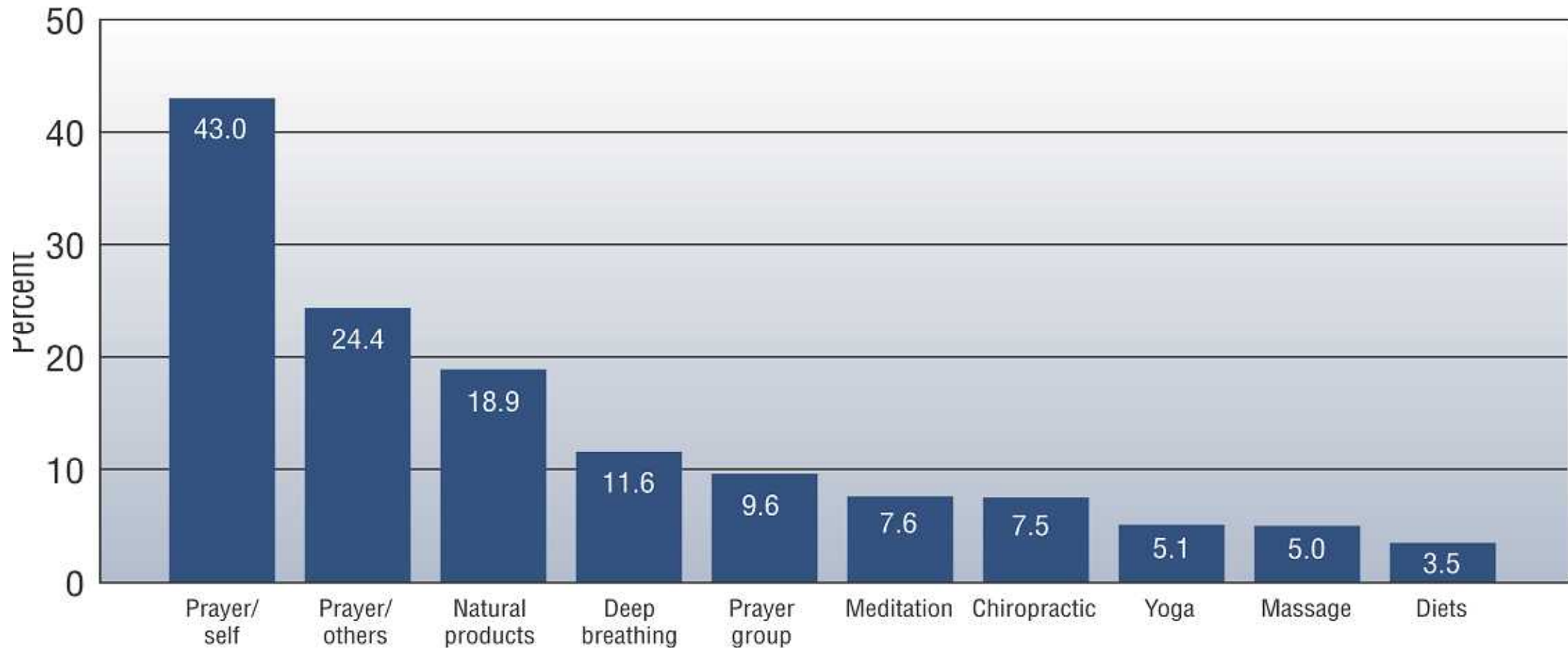
Catherine Stoney, Ph.D., a Program Officer in NCCAM's Division of Extramural Research and Training, oversees many grants in NCCAM's mind-body portfolio (see pg. 2). She noted: "There is already some preliminary evidence for a connection between prayer and related practices and health outcomes. For example, we've seen some evidence that religious affiliation and religious practices are associated with health and mortality—in other words, with better health and longer life. Such connections may involve immune function,

(continued on page 2)

¹ For definitions or other information on these or any other CAM therapies, contact the NCCAM Clearinghouse (see pg. 2).

10 Most Common CAM Therapies—2002

011-030



Source: Barnes P, Powell-Griner E, McFann K, Nahin R. CDC Advance Data Report #343. Complementary and Alternative Medicine Use Among Adults: United States, 2002. May 27, 2004

医療に宗教性・霊性は有効か？

有効だとすると、どう作用するのか？

「祈り」の効果なし？

心臓手術、米で1800人研究

最古の医療とも言われる「祈り」は、病気の治癒に効果があるのか。患者を

知らない人に祈ってもらった。効果は確認されなかった」とする声明を発表した。

では、効果は確認されなかった」とする声明を発表した。手術の成功については、祈りの効果は

影響を調べる研究が、米
国で手術を受けた約1800人を対象に実施された。研究に資金提供した

同種の研究としては6回目、過去の研究からは第三者の祈りが治癒に効果を与える可能性が指摘されていたという。

逆に、祈りが行われていることを知っていた患者の59%が30日以内に合併症を起したのに対し、知らなかった患者は52%と、祈りの「マイナス効果」が

ジョン・テンプレート財団（本部ペンシルベニア州）は「今回の厳格な研究

ランティアが「手術が成功して早く回復し、合併

みられた。（ニューヨーク）

(026 - 002)

ヒーラーは靈的存在の仲介者

治療師(ヒーラー)は治療エネルギーというか
生命力を伝える仲介者にすぎず、**靈的存在の
助け**を受けていることが分かったのである。

ref: animal magnetism (Mesmer), spiritual healing,
therapeutic touch, etcと外気功の類似性

(Shine B : Mind to Mind, 1989

(中村正明訳: スピリチュアル・ヒーリング、p170、日本教文社、東京、1991))

(028-018) Trance and Trauma. Functional Nervous Disorders and the Subconscious Mind .
Wikipedia. Figure 23. In Mesmer's (1779) view, cure was effected through "magnetic passes" of the physician's hands.



共通感覚論

共通感覚を奪われた人間とは、まことに、論理的に考えることのできる動物以上のものではない(H. アーレント)。

青年たちは、なによりもセンスス・コミュニスのうちで教育されるべきである(ウィーコ)。

五感の形成は、現在に至るまでの全世界史の一つの労作である(マルクス)。

共通感覚とは、**他のすべての人々のことを顧慮し、他者の立場に自己を置く能力**である(カント)。

音楽を聴いても、いろいろの音が耳の中に入り込んでくるだけで、何の意味もないんです(離人神経症者)

(026 - 018)

ラポール (rapport)

Freudの源流となった**Mesmerの動物磁気説**の中での概念。精神科の医者の間では日常語として使っている言葉。。。言葉を使わないで患者と治療者の間で**気持ちを通じ合う**ような現象。Messmerの磁気・治療を受けにきた個人の磁気が、宇宙の磁気と感応しあって動物磁気の治療が成立すると考え、人から人への感応を**ラポール**と呼んだ。。。

ラポールは1つの感覚で、個人の感覚というより共通感覚に直接つながる二人で**共有する感覚**。。。

ref:気が合う・気が通う ref:placebo効果

ref:政治家・役者・歌手の存在感、カリスマ性

ref:vibrational medicine

(木村敏:生命の文化論、芦津丈夫ら編、p160、人文書院、京都,2003)

(026 - 037) サイコセラピー：魂を養い、癒す術

愛は、傷ついた魂の最も力強い癒し手である。
治療的關係においては、愛は共感・配慮・温かさ・尊敬・
誠意・およびクライアントの受容として現れる。
それは魂と魂との接触を可能にし、
クライアントの魂を和らげ、
養うがゆえに癒すのである。

ref:でも、下俗的な愛は移ろいやすい・気まぐれなのが現実

(Elkins, ND : Beyond Religion, 1998)

(大野純一訳:スピリチュアル・レボリューション、p296、星雲社、東京、2000年)

Shamanism(シャーマニズム)

001-006

広義:

唯一規定可能な特徴は、特殊能力者が共同体のためにコントロールされた**変性意識状態** (altered state of consciousness) に入ること。

狭義:

変性意識状態の中でも、厳密に**エクスタシー状態に限定**する。エクスタシーとは、「人間が自己あるいは通常の状態から放り出され、強烈ないし高揚した状態に入ること」。シャーマンのエクスタシーに独特の特徴は、「**魂の飛行**」「**異界への旅**」「**体外離脱**」などの体験である。

(Walsh R:The spirit of shamanism(シャーマニズムの精神人類学:安藤治・高岡よし子訳、p22、春秋社、東京、1996))

シャーマニズムの3主徴

001-007

1. シャーマンは自発的に変性意識状態に入ることができる。
2. そうした状態のなかで異界への「旅」を体験する。
3. シャーマンは、そうした旅の中で、知識や力を手に入れ、
共同体の人々を助ける手段として利用する。
 - (4) シャーマンは霊との交流する。
 - (5) 共同体の伝統である。

(Walsh R: The spirit of shamanism(シャーマニズムの精神人類学: 安藤治・高岡よし子訳、p23、春秋社、東京、1996))

シャーマニズムと神話

001-009

-シャーマンと患者の信念体系の共有-

神話は、シャーマンの成長を導き、社会と宇宙のなかに彼らの居場所を定め、社会と宇宙と如何に関わっていくかを教えてくれる。

さらに、神話は、シャーマンとその患者が共有できる信念体系と与えてくれる。

現代の研究によれば、**信念体系の共有は、有効な治療関係**にとって欠かすことのできない要素であることが示唆されている。

(Walsh R: The spirit of shamanism(シャーマニズムの精神人類学: 安藤治・高岡よし子訳、p65、春秋社、東京、1996))

シャーマニズムとプラセーボ効果

001-012

シャーマニズムは、病いの原因と治療法を説明できる首尾一貫した世界観を提起している。

治療者と患者双方が、同じ疾患観を分かち合っていることが、プラセーボ効果や治癒力を形成する癒しの神話と治療的環境を提供するからである。

一番大切なことは、癒しの神話が真実であるということではなく、患者と治療者の両者にとって納得のゆくものだという事である。

(Walsh R: The spirit of shamanism(シャーマニズムの精神人類学: 安藤治・高岡よし子訳、p146、春秋社、東京、1996))

医学的なプラシーボという言葉

002019

「医術のごくありきたりの方法

(commonplace method of medicine)」と定義

(1787年イギリスで出版されたクインシーの辞典)

「患者への治療効果よりも、ただ患者を心理的に

落ち着かせるための薬」と定義

(1811年出版されたフーバーの医学事典)

「偽薬」(1947年出版アメリカ図解医学事典21版、Dorland)

「臨床試験における不活性薬」(1950年代)

「科学的な実証にもとづいた**プラシーボ効果の再発見**

= 病気を治療したり心理的ストレスを解放する効果」

(廣瀬弘忠:心の潜在力、プラシーボ効果。朝日選書679,p61,朝日新聞社、東京、2001年)

プラセーボ (placebo) 効果

001-015

定義: まだよく理解されていないプロセスで、信念や期待といった心理的要因が、広範囲な医学的・心理学的問題に対し従来の治療薬物・外科手術・精神療法と同じくらい強力な治癒反応を引き起こす。

おそらく**人類史の大部分、大半の治療**において主要な要素。

肯定的反応のみられた疾患: 冠動脈疾患・高血圧・癌・関節炎・潰瘍・片頭痛・アレルギー・花粉症・多発性硬化症・糖尿病・パーキンソン病・疼痛・抑鬱・不安

cf. 否定的プラセーボ効果

(Walsh R: The spirit of shamanism(シャーマニズムの精神人類学: 安藤治・高岡よし子訳、p247、春秋社、東京、1996))

プラシーボ効果を発揮する要因 002016

医者と患者の間の**信頼**にもとづいた人間関係

医者が治療にかける**自信**や**威信**のような人間的要素

病院の雰囲気のような**状況的**要因

患者の**心の柔軟さ**がプラシーボに働く場を与える

cf. プラシーボはエンドルフィンを分泌

(廣瀬弘忠:心の潜在力、プラシーボ効果。朝日選書679,p39,朝日新聞社、東京、2001年)

プラシーボにはある種の神秘性が必要

002017

ただ何かを期待しているだけの人と比べて、心底それを**信じている人**の方が、より強い即効的な内的反応、あるいは生理的反応を起こしやすいのは確か。。。これから起ころうとしていることを思い描いて、頭の中に詳細な認知地図をもっているような人々ではない。。。

もし、医者が、このプラシーボの作用をきわめて具体的、かつ正確に伝えたとしたら、ある意味で、プラシーボの与え手に必要な強力で効果的なカリスマ性を失ってしまう。。。

(Harrington A(ed):The Placebo Effect.An Interdisciplinary Exploration,Harvard University Press,1997)

プラシーボは癒しのシンボル

001-015

プラシーボ効果とは、シンボルを用いた儀式がもたらす癒しの効果である。

世界中の様々な宗教や信仰の中でおこなわれている癒しの儀式と本質的になんら変わるものではない。

(廣瀬弘忠:心の潜在力、プラシーボ効果。朝日選書679,p36,朝日新聞社、東京、2001年)

プラシーボ効果発現の説明

002023

Endorphin経路

免疫力活性化経路

cf. 遺伝子switch-on(阿岸)

(廣瀬弘忠:心の潜在力、プラシーボ効果。朝日選書679,p131,朝日新聞社、東京、2001年)

脳の情動処理

002024

脳は「できる」と**確信する** (仮説を立てる) と、その「確信」の論理的な後ろ盾を与えるべく認知情報処理系がフル活動をする。そのため「できる」と確信したことは必ずできるようになる。

逆に「できない」と確信してしまうと、脳は「できない」ことの論理的理由を明らかにするように働き、できる可能性をどんどん縮小する方向に働く。

cf. **情動による遺伝子switch-on**(阿岸)

(松本元: 愛は脳を活性化する。岩波書店、東京、1996)

心理療法が効果を表す3つの要因

002032

心理療法の効果の比較研究結果：

- 1.心理療法には効果がある。
- 2.異なる心理療法間には、明確な効果の違いはない。

心理療法が効果を表すために満たすべき3つの要因：

- 1.もっとも必要なのは、治療者と患者の間に生まれる
信頼にもとづいた相互関係。
- 2.治療者の人間的な温かさ、共感能力、忍耐力、率直さ、
誠実さなどの人格的資質。
- 3.患者からすると、治療者への強い信頼、治療効果への期待、
自分自身を変えようという意欲、忍耐力など。

(廣瀬弘忠：心の潜在力、プラシーボ効果。朝日選書679,p171,朝日新聞社、東京、2001年)

プラシーボ効果は、心身機能

002021

プラシーボ効果とは、人類が長い時間をかけて体得してきた、生き残りのための心身機能の一つである。

(廣瀬弘忠：心の潜在力、プラシーボ効果。朝日選書679,p71,朝日新聞社、東京、2001年)

Bernie S Siegel(Love,Medicine & Miracles 奇跡的治療とはなにか：

石井清子訳、p38,日本教文社、東京、1988)

012-037

原始的医療というのは、ほとんどすべてとっていいほど、治るという確信を強める儀式を通じて、プラシボ効果を利用する。

日常臨床医療と

宗教(性)・霊性

「医療と宗教を考える会」

設立趣意書(抜粋)

。。。限りなく高度化する医療技術や献体、臓器移植に対する宗教者の慈悲と反発、ホスピスにおける宗教者との邂逅といった問題を通して。。。自然との共存を重要視する宗教への関心。。。

。。。“医療における宗教”、“宗教における医療”の全てを探求し、心と物質の相互関係を追及し、医療と宗教との種々な接点を考えていく。。。。

「医療と宗教を考える会」

研究会の内容:(イ)月例勉強会・(ロ)ミニシンポジウム
(ハ)シンポジウム・(ニ)講演議事録の発行

講演会:

第1回「禅の心, 医の心」(1985, 2, 27)前龍源寺住職・松原泰道

第2回「治しと癒しの間-民間治病儀礼をめぐって-」(1985, 3, 27)駒沢大学教授佐々木宏幹

第3回「神道の死生観そして医療」(1985, 4, 25)、鉄砲洲稻荷神社宮司中川正光

第4回「宗教の生理学と病理学」(1985, 5, 30)大阪大学医学部教授中川米造

第5回「医療史に見る医の心とその思想的背景」(1985, 6, 26)愛仁会名誉理事長竹中普久

。

。。

第178回「痴呆症の病名告知と自己決定のすすめ」(2002, 5, 29)僧侶・医師田中雅博

第179回「医療ジャーナリズムから見た医療観の変化」(2002, 6, 27)医療ジャーナリスト穴戸幸夫

第180回「ホスピスを作ると病院全体が変わる」(2002, 7, 24)東洋英和女学院大学院錦織葆

第181回「運命諸相-古文学の奥に探る-」(2002, 9, 25)駒沢大学名誉教授水原一

第182回「ビックリ・語源で学ぶ医療のことば」(2002, 10, 23)相模台病院横田真二

1. 生命の芸術として岡田式浄化療法

人間は自然治癒力という。。。治病力を天から与えられている。。。。

浄霊は、その自然良能力をより強化しより促進する方法。。。。

手のひらから一種のエネルギーを放射して集溜する毒素を溶解、
排せつさせる健康増進法

2. 農の芸術として自然農法・自然食

3. 美の芸術として美術・文化

(抜粋: 岡田茂吉の世界: MOA INTERNATIONAL
健康科学: エム・オー・エー健康科学センター)



東京療院 09/14/04
集団浄霊治療013-023

齊 現代薬師の集い



人のあるべき、宗教心・信仰心は、
人の健康へと導いてくれます。

『現代薬師の集い』は、寺院様にご意見を伺いながら、檀家様・近隣の方々の良い集いが出来ればと、望んでおります。

015-034

011-050 現代日本医療の霊性・宗教性の重層性

現代日本の医療と霊性・宗教性

表層(後天的・獲得的・教養的・建前論的):

医療・教育において霊性・宗教性は禁句！オカルトには腰が引ける(どうする?)。

儒教道徳・精神の追放(paternalism追放)。

情報開示・informed consent・病名告知。移植医療。国境なき医師団・在宅看護

深層(先天的・生来的・遺伝的・民俗的):

霊性・宗教性を認める。死体に靈魂。葬式・盆・暮れ・祭り(日本式儒教化仏教)

マスコミ的オカルト・占い・祟り・遺恨・怨恨。

儒教的精神(家族内のことは外へ言いたくない。家の恥。外聞が悪い)

病名は本人には言わないで！キリスト教的service/donation精神は未熟・ない？

移植臓器は肉親へ提供。移植のための脳死(日本的擦れ・歪み)。

医療における感性の原初的共鳴(vibrational medicine)・癒しの医療

神仏に祈願/加護・シャーマニズム

cf:most popular CAM in USA prayer

根源的深層精神構造は、霊・霊性を認め、真にグローバル的共通！！

ref:臨床医療現場での難しさは、表層・深層が出たり・入ったりすること

日本の脳死・臓器移植の将来

008026

臓器移植を希望する患者は多いが、**臓器提供者は非常に少ない**。

大半の日本人が儒教的死生観の持ち主だからである。その肉体は親の遺したものであり、傷つけないように大切にするので、死後も、肉体から臓器を取り出すことを好まない。遺族は墓を作り。焼身式土葬を行い、祖先祭祀を行う。靈魂がこの世に留まり、遺族が行う招魂(祖先祭祀・先祖供養)によって位牌に憑り付き、再び生きる。現在、遺体を焼いた後、お骨を拾って墓に納める。そしてお墓参りを欠かさない。

宗教上の行為は、あれ多かれ少なかれ、**非合理的**なものである。

(加地伸行:沈黙の宗教-儒教-、p219、筑摩書房、東京、1994)

スリランカ・インド / 中国における臓器提供 008028

スリランカ・インドなどの南アジアにおける宗教(ヒンズー教・仏教)における死生観は輪廻転生である。この世は苦という認識。死を恐れていない。死者の肉体には意味を認めない。輪廻転生の国々から大量の臓器提供は、死生観から行って不思議ではない。

中国では死刑囚からの臓器獲得・移植を容認。儒教とは関係ない。中国では昔から死刑囚に対する人権的配慮はない。死刑になるような悪事を犯した人間は、家系譜から抹殺し、一族の墓にも入れない。人間扱いをしない。どうせ死ぬならばもったいないとい即物的理由から獲得。

統合医療は、

transmedical supermedicine

医学の特異性：**複合的**学問・**統合的**特性

科学的側面；身体を物質的存在に還元、
身体部位別・治療手段別に分化・専門化

哲学的側面；精神的存在に還元、
人間を全体として扱う全人医療的

倫理的側面；

宗教的側面；医療奇跡(シャーマニズム・道教・
ルルドの泉) プラシーボ 霊(性)

「医者は牧師のこころを持つべき」(内村鑑三)

芸術的側面；

「サイエンスに支えられたアート」(A.Schweitzer)

「個性の交流が作り上げるアート」(日野原重明)

医療先進社会・国家における重層化した医療

1. 狭義の**正統的医療** = 厳密な意味の“医療”

科学的！！ 哲学的？？ 宗教的？？ 芸術的？？

2. 補完・代替・伝統医療 = 厳密には、“**非医療**”“**医療(業)類似行為**”

科学的？？ 哲学的！！ 宗教的！！ 芸術的！！

両者を併せて、複合的・統合的特性 **transmedical**

= 科学的・哲学的・宗教的・芸術的

広義の医療、最近では、統合医療

ref: transpersonal, transdisciplinary

interdisciplinary

周辺関連科学の進歩

↓ 触発

現代医学

人間

人間 ×

↓ 分析的に解析・解明

↑ 集合

臓器・器官・組織・分子・遺伝子

↓

生命の不在・理解不能

人間を科学的・哲学的・宗教的・芸術的 etc

統合的に視て理解可能

「全体は部分の集合にまさる」(パスカル)

「自然のシステムはすべて全体。。。互いに依存し合う。。。全体の性質は単なる部分の総和とは異なる」(カプラ)

ref:生命現象の複雑系理解

科学の分化と統合

003010

近近代科学は、字義通り専門各「学科」に分化し、発展してきた。

直近、半世紀の諸科学の展開は、**ひとたび細分化**され、疎遠になりつつあった諸分野が**新しい統合**へ向かい、全く斬新な問題意識で人知の進歩への展望が開けつつある。

再統合の動機：

学問内在的必要性；ex.物理学・化学・生物学の融合

社会的・実践的要請；ex.環境科学

統合・学際化のレベル：

主として、学界・研究者集団のレベル

稀に、学際的な洞察と学殖をもつ個人、

ダヴィンチの再来は不可能

(科学は人間を幸福にするか：碧海純一・大熊由紀子・加藤一郎編、勁草書房、東京、1989)

(022-020) 科学專一的医療から
統合医療へ移行のincentive/driving force

原初的医療
多様な側面
多彩な要素

統合医療
全人的医療

⇒ 複雑系理解へ

